

五十字劇評NO.71

言わせて！

今日の芝居

バリカンとダイヤ

〔30代〕

▼物心両面で余裕の残る昭和中期の古臭さを感じ、現代には共感性に欠ける。登場人物の行動の動機が見えて来ず、深みを感じない。(男性)

〔50代〕

▼時に笑い、時にほろりとしながら観終わりました。登場人物それぞれ立場や言い分に頷けたり、頷けなかったりしながらお芝居を観ていました。とても楽しめました。(女性)

〔60代〕

▼通帳読み上げシーン。百万と聞き取りました。後で台本を見ると千万百万でもまた話は十分成り立つかな。(男性)

▼矢野陽子の達者な演技がこの劇団の質を支えている。個人的には長女の演技が好きだ。一級品のホームドラマであった。(男性)

▼賑やかな会話シチュエーション劇。サービス過剰のような庄あり。各役者の声量、演技力。日々の幸せを思う。(女性)

▼搬入の手伝いをした。舞台監督がお役御免の際に、謎の挨拶をしたのが引かなかった。曰く、「セットの壁が倒れないか注目してください」。

翌日、観劇の際に、意味はすぐにわかった。組み上がったセットは3階建てで、2階はもろろんのこと、3階の窓からも役者さんが顔を出すのだ。セットの裏はどんな仕掛けだったのか。不覚にも、ロビー交流会で聞きそびれた。(男性)

▼丁度ジャストの年代で「あるある」「いるいる」と思いながら楽しく見ました。久しぶりにロビー交流会にも出て、皆さんの質の高い的確な質問にびっくりして、そして素敵な仲間といるのだなあ嬉しくなりました。(性別記入なし)

〔70代〕

▼題名の『バリカンとダイヤ』ってな

にと思っていたら、さりげなく会話の中に出てきて納得するが、登場人物に疑問？父親が亡くなって数日後、母親と三姉妹の話とばかり思っていたが母親の姉・近所の友達この辺りはわかるが、主人が亡くなったばかりの家に、友達が化粧品品の販売員とくに新興宗教の女性を連れてきたのはなぜか？なぜか笑ってしまった。(女性)

▼宝塚でないのに出演者は女だけ？でも皆が適役でテンポ良く展開。意外な結論もあってとても面白かった。(女性)

▼「続きが観たい」が感想の始まり。とにかく日常どこにでもありそうな場面展開。どこにでもある家族の会話。それぞれが我を出しつつも家族のきずなが伝わってきました。近所のお節介の女性。遠方の叔母さん。良い登場人物の演技がとても自然でした。時にうなずき、時に涙しながら、時に自分に被せたり、あつという間の公演でした。(男性)

▼久しぶりの芝居だ！と楽しみに出かけましたが、内容がいまいちというかたびれました。父親からお金をもらうことばかり。娘がこんなに

父親に甘ったれていいのか。
(性別記入なし)



【80代】

▼女性のみの出演者で見事に演じた
プレオム劇。大西多摩恵を中心に味
わいがあられ親しみが持てるチームワ
ークのとれた人情劇でした！(男性)

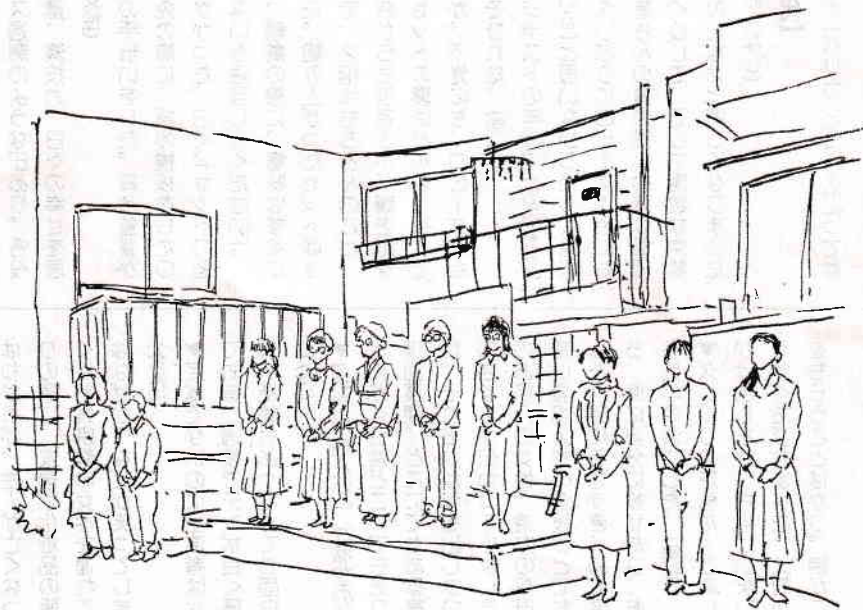
【年齢記入なし】

▼中島作品だったので期待度がマイ
ナススタートだったこともあり、意
外と面白く観劇できた。なぜならば
今まで観た中島作品と違って共感で
きる場面があったからだ。ただ、金
に目の色変えてものを言う娘の醜さ
があったので母親が隠し財産に安堵
する姿まで見せるのはいかなるもの
かと。ウケ狙いでこの流れを作った
のだとしたら下品なオチだと思う。
せめて夫婦だけの何気ない思い出、
心が満たされるようなプライズレス
な着地点が見えたら良かったなあ
と感じた。(女性)

▼前回の『脚光を浴びない女』があま
りにもすばりしかったので、久しぶ
りに観劇しました。大満足でした。
(性別記入なし)

言ひなへ

五十年後編NO.1



編集スタッフから

夫の葬儀を終えたばかりの
未亡人。悲しむ暇もなく、無
理難題がのしかかる。その対
応に右往左往しながらも自分
を見失わない主人公と、ちょ
っぱりハッピー？なラストシ
ーンに共感。役者さんたちは
実に自然体で伸び伸びと役を
こなし、前回プレオム劇の消
化不良感を払拭してくれまし
た。きつとこの芝居はプレオ
ム劇の十八番(おはこ)である
と想像します。僭越ながら。

そして、この舞台の作者が
『ゆれる車の音』の中島淳彦だ
から、いい人情芝居にならな
いはずはなかったのです。

きつと私が苦手だった「脚
光を浴びない女」も今なら違
って観ることができそうです。
いやもう一度観てみたい。

芝居って、どこにいい芝居
が転がっているかわからない
ものですね。(失礼！)
嬉しいとんでん返しました。